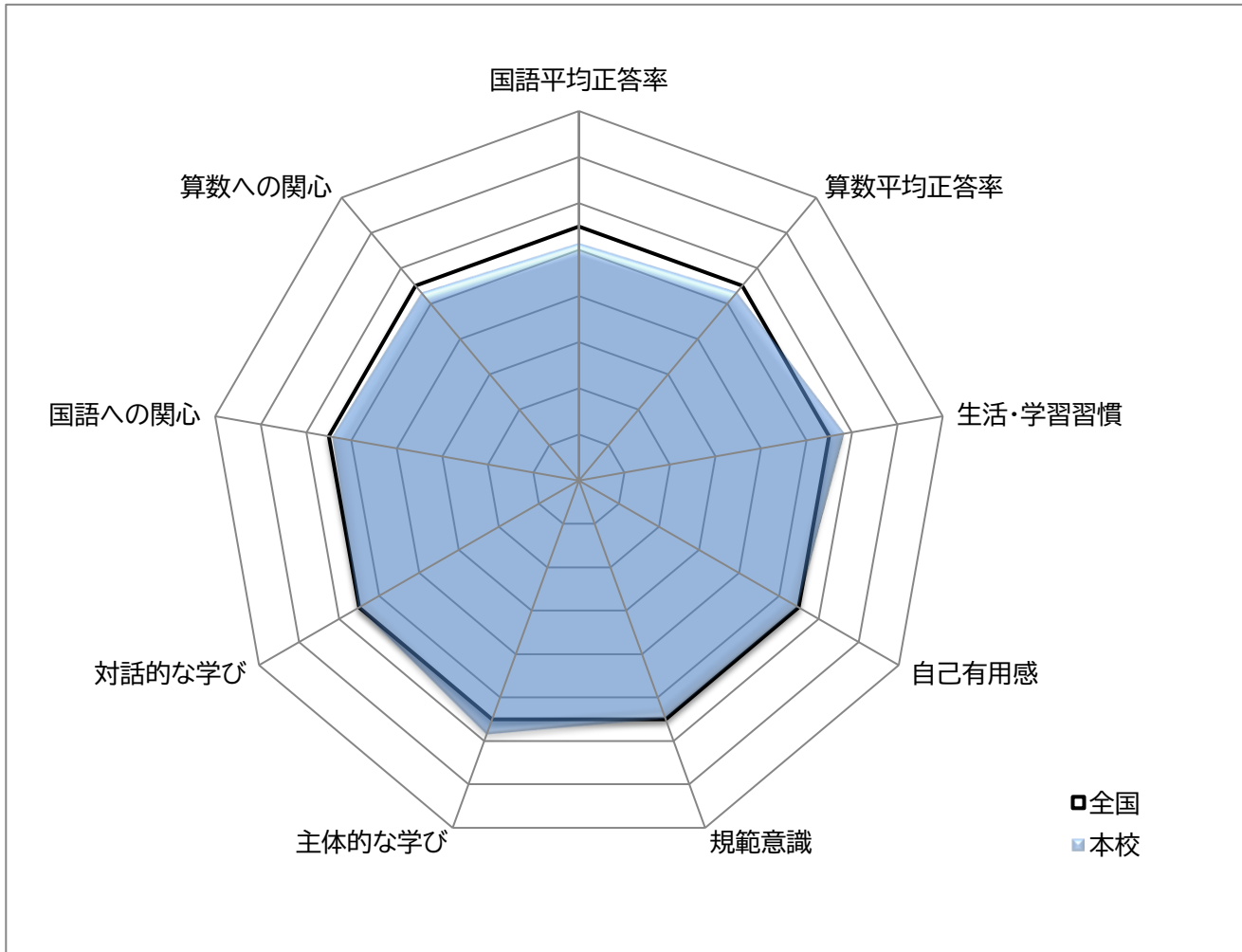


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・国語、算数ともに、平均正答率が下回っており、基本的な知識・技能の定着が必要である。
- ・算数への関心に比べ、国語への関心は高く、必要感をもって学習に臨んでいる児童が多い。
- ・「主体的な学び」の項目では、自分の考えを発表する場面で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表できる児童が全国平均を大きく上回っている。また、課題の解決に向けて、自分で考え、自ら取り組むことができた児童が多い。
- ・全体的に基本的な知識や応用力に課題があるため、継続して指導する必要がある。

《授業改善のポイント》

【国語】

- ・児童の興味・関心を生かし、学校図書の有効活用を進め、読書の時間を通して文章に触れる機会を増やし、言語能力を高める。
- ・パンフレットやポスターを書く単元では、実物を見せ、どんな内容が書かれているかを比較し、情報を捉える指導を行う。

【算数】

- ・日常の問題を解決するために、場面を解釈して数量の関係を捉え、解決方法を式や言葉を用いて説明できるよう指導する。
- ・問題文の要点を整理し、具体的な場面や問われている内容等を想像できるように読解力向上の指導に重点を置く。図形の性質の本質や作業方法などを理解し、解決していく活動を取り入れるようにする。

【全教科に関わること】

- ・児童の自主性を大切にし、「疑問をもつ・調べる・まとめる・発表する」の流れで学習を行う。ただ発表するだけでなく、互いの発表に対して、考えを伝えられる場面を設定する。
- ・学校行事や縦割り班活動などで、児童が自主的に活動できる場面を設定し、成功体験を大いに経験させる。

《チャートの特徴》

- ・国語・算数ともに、全国平均正答率を下回っている。
- ・「主体的な学び」は数値を大きく上回り、日常の学習の姿が反映されている。
- ・「国語への関心」の項目が全国平均よりも高く、関心をもって学習していることが分かる。関心がある一方で正答率には結びついていない。
- ・国語・算数ともに、全国平均正答率を下回っているが、自己有用感は平均と同じ数値を指している。「対話的な学び」は、わずかに平均を上回った。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・家庭でも自分の考えを話すこと、相手の話を聞く姿勢を意識するよう促す。
- ・「規則正しい生活習慣」「学習習慣」を身に付ける大切さを引き続き継続して指導していく。
- ・自分で考えて行動できるように、まずは「やってみる」を大切にし、それに準じて手助けをしていく。